

1. 交通科学博物館50周年記念展「コウハク家の歴史

～昭和レトロの暮らしと、のりもの物語～」を開催しています

1月21日より映画の「ALWAYS・三丁目の夕日'64」が公開されましたが、時を同じくして当館でも昭和30、40年代の暮らしや交通事情を紹介した交通科学博物館50周年記念展「コウハク家の歴史～昭和レトロの暮らしと、のりもの物語～」を開催しています。

当館は昭和37年1月21日に開館しました。世の中はちょうど高度経済成長期の真っただ中で、人々の暮らしぶりや景気もどんどんと上昇気流に乗りはじめ、それにあわせて交通事情にも大きな変化が現れ、鉄道も船舶も航空機も劇的に変貌します。

そんな激動期を「コウハク家」という、ごく普通の架空の家族の目線から紹介します。団塊世代など年輩者には、そんな時代を振り返って、懐かしくも、ちょっぴり切なく、子供さんや若い方々には「レトロ感」もまた新鮮に見ていただけたらと思います。ぜひご観覧下さい。

(1) 催物名 交通科学博物館50周年記念展
「コウハク家の歴史 ～昭和レトロの暮らしと、のりもの物語～」

(2) 開催期間 平成24年5月27日(日)まで

(3) 内 容 交通科学博物館が開館50周年を迎えることを記念して、開館当時の交通について取り上げます。架空の家族「コウハク家」を通して、昭和30・40年代の時代背景の中で、どのような乗り物が登場し、普及・発達していったのかを紹介します。

コウハク家の20年

家族旅行や海外旅行、マイカーなどが普及し始めた昭和30・40年のごく一般的な家庭の暮らしの様子と乗り物との関連性を、架空の家族「コウハク家」を通して紹介します。

コウハク家の居間

昭和30年代の一般的な家庭「コウハク家」の居間を再現展示します。また、タバコ屋・駄菓子屋などの店構えを紹介すると共に、当時の生活や子供の遊びの様子も併せて紹介します。

くらしの値段

特急、新幹線、飛行機などの乗り物の運賃や、乗用車の価格などで、当時の物価を紹介します。

昭和30年・40年のあそこ

「衣」・「食」・「遊」をテーマに、当時流行した「モノ」や文化を紹介します。

【主な見どころ】

レトロな品物（湯たんぽやトランジスターラジオ、カメラ、子供玩具など）

コウハク家の居間とたばこ屋兼駄菓子屋の店先の情景展示

Nゲージによる鉄道風景と街並みの再現

電子紙芝居（コウハク家のその後を童話風紙芝居で観ていただけます）

懐かしのワンフレーズ（TVやラジオから流れていた、赤胴鈴之助や月光仮面、少年探偵団などのテーマソングの一部をお聞きいただけます）

街角と軽自動車（ミゼット、スバル360の実物展示）

- (4) 協力 大阪市交通局、大阪市港区役所、首都高速道路株式会社、なにわの海の時空館、船の科学館、港新聞、モデルシップ友の会、株式会社さんふらわあ、株式会社ベースボール・マガジン社東京地下鉄株式会社、生地健三、山田昌次、（順不同・敬称略） 「昭和30～40年代 港区メモリー ～交通科学館が開館したあの頃～」にご協力いただいた方も含む

2. 「昭和30～40年代 港区メモリー ～交通科学館が開館したあの頃～」を開催しています

昭和30～40年代、「交通科学館」が開館した頃、当館が所在する大阪市港区は、どのような交通が発達していたのかを、写真やパネルを用いて紹介しています。

- (1) 催物名 「昭和30～40年代 港区メモリー
～交通科学館が開館したあの頃～」
- (2) 開催期間 平成24年5月27日（日）まで
- (3) 場 所 エントランス・ギャラリー
- (4) 内 容 開催中の企画展に合わせて、当館が所在している大阪市港区における大阪市電や大阪環状線、瀬戸内航路の要である弁天ふ頭の様子など、昭和30～40年代当時の交通の様子を写真やパネルで紹介しています。

◆ 2月の催物ニュース 写真

2月の催物ニュースの参考写真です。



1. 交通科学博物館50周年記念展
「コウハク家の歴史 ～昭和レトロの暮らしと、のりもの物語～」
上左：会場入り口（展示車両：ダイハツミゼットMPA）
上右：「コウハク家」の居間 情景展示
中左：「コウハク家」の駄菓子屋 情景展示
中右：展示風景（大阪駅模型と自動車模型）
下：会場風景（展示車両：スバル360DX）



2. 「昭和30～40年代 港区メモリー ～交通科学館が開館したあの頃～」
展示風景